第４学年　道徳学習指導案

指導者　○○○○

１　主題名　　　本当の友達って？（内容項目Ｂ-10［信頼・友情］）

２　資料名　　『絵はがきと切手』（出典：「道徳の指導資料とその利用３」文部省）

３　主題設定の理由

1. ねらいとする価値について

本時では、内容項目B「主として人との関わりに関すること」のうち、「信頼・友情」について扱う。第３学年及び４学年の内容項目「信頼・友情」は、友達と互いに理解し合い、信頼し助け合うことを指す。自分とは異なる相手の意見や立場を尊重し、お互いに助言や忠告に耳を傾けたり、反省したりする態度を養うことをねらいとする項目である。  
 　社会生活において、友達の存在は大きいものである。楽しさや喜びを共有できるだけでなく、困ったときは、助け合ったり励まし合ったりしてくれるものでもある。しかし、それだけでは本当の友達、友情とは言い難い。必要であれば、友達の間違いや欠点でも指摘し、互いに学んでいくことが大切である。互いに信頼し、掛け合った言葉を受け入れながら、自己のよりよい生き方を見付け出していくものでありたい。この時期の子供たちは友達に合わせることが親切であると、受け身に考えがちである。そんな子供たちに、友達のためを思って忠告することも必要であることに気付かせ、友達との関係を更に深めてほしいと願い本単元を設定した。

1. 子供の実態について

本学級の児童は、７人という少人数の中で何年間も過ごしてきた。一人一人が互いに理解し合っており、仲もよい。人が困っていれば、助け合える優しさもある。その優しさは思いやりがあると言えるが、相手に気を遣いすぎる余り、相手の間違いや欠点を指摘すべきだと分かっていてもなかなか言えない場面もある。これは、指摘をすることで相手を嫌な気持ちにさせたり、自分を悪く思われたりするのをおそれているためだと考えられる。しかし、時には、相手の間違いや欠点を指摘してあげることが本人のためになることもあり、そうした行為が相手との信頼関係の深まりに結びつくことに気付いてほしい。本時を通して、これまでの友達とのかかわり方を振り返り、言いにくいことも相手を思って伝えることや、そうすることで互いを高め合う大切さに気付かせたい。

（３）資料について

遠くの町へ転校した仲よしの正子から届いた絵はがきは規格外の大きさで、料金不足であった。広子の兄は「教えてあげた方がいい」と言い、母は「お礼だけ言うのがいい」と勧める。兄の意見のように料金不足を伝えることは、正子を嫌な気持ちにさせる。しかし母の意見のように伝えないままだと、正子が別の人にも同じ失敗をしてしまうのではないかと、広子は二人の意見の間で揺れ動く。最後に広子は、正子に間違いを教えることを選択する、という内容である。仲のよい友人に対し、友達としてどのような行動がその人を思いやっていると言えるのか、子供が自分に置き換えて考えるのに適した資料と言える。

４　指導に当たって

　導入では、「よい友達関係」とはどういうものか想起し、友達関係の在り方を考えられるようにする。展開では、範読前に規格外はがきの見本を見せて料金不足の意味を伝え、話の理解を助ける。はじめに、手紙をもらったときの広子の気持ちを確認することで、その後の葛藤する気持ちにつなげたい。中心発問では、部屋で一人になった広子の気持ちを考える。兄と母の意見を振り返り、揺れ動く広子の気持ちを考えるが、そこで「学級井戸端会議」を行う。席を離れ円くなって会話することで、のびのびと意見を出し合える雰囲気をつくる。そして、広子が正子に伝えると決心したときの気持ちを考え、言いにくいことも伝えてあげることが、友情の形の一つであると気付かせたい。最後に、広子になったつもりで正子への手紙を書く。どのように伝えたらうまく伝わるか子供たちと出し合い、相手を思いやった行動について考えたい。

５　本時の指導

1. ねらい

・広子の葛藤に共感することを通して、友達と互いに信頼し合い、時には注意し合いながら友情を深めていこうとする心情を育てる。

1. 準　備　ワークシート、場面絵
2. 展　開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 段階 | 学習活動　　予想される子供の反応 | ◇教師の支援　　◎評価 |
| ５  分 | 導入 | １　本時の学習のねらいを確認する。  「よい友達関係」とは、どういう関係だと思いますか。  ・助け合える関係  ・やさしくし合える関係  ・楽しませられる関係 | ◇展開の最後に、友達に対する考えの深まりを実感できるよう、現時点での自分の考えを押さえておく。 |
| 25  分 | 展  開 | ２　「大きな絵はがき」を読んで話し合う。  正子から絵手紙が届いたとき、広子はどんな気持ちだったでしょう。  ・うれしい。  ・離れてもずっと友達だ。  ・私のことを忘れてなくてよかった。  自分の部屋に戻った広子はどんなことを考えていたでしょう。  ＜教えてあげた方がいい＞  ・友達として言ってあげるべき。  ・本当のことを教えてあげないとまた同じことをしてしまう。  ・分かってくれるはず。  ＜お礼だけ言っておいた方がいい＞  ・お礼だけ言った方がいい。  ・言ったら悲しむ。  ・誰かが教えてくれる。  ・いやな気持になる。  ・私が我慢すればいい。  料金不足を伝える決心をした広子はどんな気持ちだったでしょう。  ・正子さんならきっとわかってくれる。  ・本当のことを言ってあげられるのが本当の友達。  ・もし自分が正子さんなら、教えてもらいたい。 | ◇定形外郵便の見本を提示し、料金不足の意味について説明してから資料を範読する。  ◇正子を慕う気持ちを押さえることで、その後の葛藤する気持ちにつなげる。  ◇母と兄の意見を確認することで、広子の葛藤する気持ちに共感できるようにする。  ◇子供どうしが自由に意見交流する雰囲気を作るために、円くなって学級井戸端会議を開く。  ◇自分の考えを整理し、自信をもって発表できるよう、ワークシートに記入させる。  ◇意見が「お礼だけにしよう」に偏ってしまったときは、「他の人にもやってしまったら」と切り返すことで思考を広げる。  ◎広子の心の葛藤や決断を考えることができたか。（発言・ワークシート）  ◇正子に伝えた方がいいと決心した広子  　の気持ちを考えることで、友達でも時には忠告してあげた方がいいこともあると気付くことができるようにする。 |
| 10　分 |  | ３　広子の立場になり、正子への手紙を書く。  正子のことを思う広子の気持ちになって、手紙を書いてみよう  ・実ははがきが大きくて料金不足だったよ。今度から気を付けるといいよ。  ・料金不足だったから払っておいたよ。けれど気にしないでね。  言いにくいことも、言わなきゃいけないときがあるよね | ◇ロールレタリング（役割手紙書き）を行うことで、相手を思いやった伝え方を考えることができるようにする。  ◎友達を思いやった伝え方を考えることができたか。（ワークシート） |
| ５  分 | 終末 | ４　教師の説話を聞く。  ・友人に忠告され、自分の行動を振り返った体験を語る。 | ◇教師の体験に基づく説話をする。 |

６　評価

・広子の葛藤に共感することを通して、友達と互いに信頼し合い、時には注意し合いながら友情を深めていこうとする心情を育てることができたか。